

2013 年度夏の三者総会 議案書

2013 年度三者事務局校・新潟大学

2012 年 8 月 5 日 (月) 13:30 ~
於・原子核三者若手夏の学校 ホテルたつき

目 次

1	2013 年度三者センター校 (東京大学)	['13/07/20 現在]	2
1.1	活動報告：援助と協賛について	['13/07/20 現在]	2
1.2	交通費補助・宿泊費補助について	['13/07/20 現在]	2
1.2.1	宿泊費補助		2
1.2.2	交通費補助		2
1.2.3	組み合わせ		2
1.3	アンケート (旅費と旅費補助に関する実態調査) の実施について	['13/07/20 現在]	3
1.4	新たな財源の探索に関する決議	['13/07/20 現在]	3
1.4.1	新たな財源の探索の目的		3
1.4.2	web 広告案と基研サーバー		4
1.4.3	新しい助成団体の探求		5
1.4.4	まとめ		5
1.4.5	想定される質問		5
2	2013 年度事務局校 (新潟大学)	['13/07/21 現在]	7
2.1	活動報告		7
2.2	三者役職校選定 (承認)		7

1 2013年度三者センター校（東京大学） [’13/07/20 現在]

1.1 活動報告：援助と協賛について [’13/07/20 現在]

文責：石川和哉 (東京大学)

2013年度三者センター校は、以下の団体に対して経済的援助あるいは協賛を依頼し、その承認を得た。

援助：基礎物理学研究所: 450,000 円¹、素粒子論グループ: 450,000 円

原子核談話会：原子核研究夏の学校特集号出版費

協賛：RCNP(核物理研究センター)、理研仁科センター、高エネルギー研究者会議、日本物理学会

1.2 交通費補助・宿泊費補助について [’13/07/20 現在]

文責：石川和哉 (東京大学)

三者若手夏の学校は基礎研究所、素粒子論グループの資金の援助の上に成り立っています。本年度は基礎研究所から45万円、素粒子論グループから45万円援助して頂きました。これらの援助は、夏の学校参加者の「宿泊費補助」と「交通費補助」に充てています。これらの援助と大学や自らの財源（学振など）からの援助を同時にもらうことは犯罪にあたりますので、注意してください。

1.2.1 宿泊費補助

宿泊費補助は、「発表者」のうち大学や学振など他の財源がない方への補助として行っています。補助されるのは「宿泊費」のみです。財源は基礎研究所の援助から出ています。したがって、宿泊費補助申請をした方は、それが実費に足りなかったとしても、他の財源（大学など）から「宿泊費」として援助をもらうことは出来ません（犯罪になります）。

1.2.2 交通費補助

交通費補助は、「参加者」のうち大学や学振など他の財源がない方への補助として行っています。補助されるのは「交通費」のみです。財源は素粒子論グループの援助から出ています。したがって、交通費補助申請をした方は、それが実費に足りなかったとしても、他の財源（大学など）から「交通費」として援助をもらうことは出来ません（犯罪になります）。

1.2.3 組み合わせ

援助は「どうしても財源がない」方にのみ行っています。したがって、学振をお持ちの方など自分の財源を持っている方には援助出来ません。「大学から交通費は出るが宿泊費が出ない」という場合や「大学から1万円しか出ない」という場合は申請することが可能です。しかし、前述の通り「宿泊費」や「交通費」の名目がかぶることはできません。

¹基研自体の予算がこれから年々減ることになっている。このことから基研からの援助は例年の500,000円から450,000円に減額した。

例	宿泊費	交通費	
1	大学から	夏の学校	
2	夏の学校	大学から	
3	夏の学校	夏の学校	
4	大学から（1万円）と夏の学校	夏の学校	犯罪
5	大学から	夏の学校と大学から（実費との差額）	犯罪
6	夏の学校（と内緒で大学から（全額））	大学から	犯罪

1.3 アンケート（旅費と旅費補助に関する実態調査）の実施について [’13/07/20 現在]

文責：寺田隆広（東京大学）

例年センター校が夏の学校の費用に関するアンケートを行い、翌年のセンター校が素粒子論グループや基礎物理学研究所（基研）に予算申請をする際の参考資料として使っている。夏の学校は、基研の「共同利用」研究会の一つという位置づけになっているが、今年基研で共同利用の予算申請を行った際には、審査員である基研の職員から旅費補助の実態の詳細を知りたいという要望が出た。基研の予算は減少する予定であり、基研から共同利用で予算をもらっている競合他団体（物性・天文・生物物理の夏の学校）は予算を得る為か色々工夫を凝らしていた。この様な状況で来年度以降も十分な旅費補助を行えるように予算申請のプレゼンテーションを行う為には参加費・旅費とその援助額に関する実態調査が必要であり、今年も夏の学校において実施する。

予定では、アンケート用紙は夏の学校の受付で配布し、回収箱を設置して随時回収するが、締切は8月9日（最終日）の午前9時である。三者総会では、ここに書いたことも含めてアンケートを是非書いて頂くよう宣伝させて頂きたい。アンケートに記入する時間も設ける予定である。皆様のご協力をお願いしたい。

1.4 新たな財源の探索に関する決議 [’13/07/20 現在]

文責：北原鉄平、寺田隆広（東京大学）

2013年度センター校の東京大学は2013年度春の三者総会において「新たな財源としての協賛募集」という議案書を提出した。web上で協賛募集をし、広告を掲載することによる広告費収入の開始案を提案し、可決された。その時、詳細に関しては春の三者総会で議論された点を含めてセンター校が再度説明し、夏の総会にて再び審議することになった。

しかしながら、現在、原子核素粒子若手三者（以下、若手三者）のホームページのサーバーがある基礎物理学研究所（以下、基研）では、web広告による収入は不可であることが新たにわかった。従って、我々は以下の2つの案（1.4.2, 1.4.3）を新たに提案する。

1.4.1 新たな財源の探索の目的

本議案において新たな財源を得る目的は、原子核三者若手夏の学校（以下、夏の学校）参加者の旅費補助を安定して実施することである。多様な学生の議論の場としての夏の学校を維持するためには旅費補助を安定に保つことが必要だと考えられるからである。しかし、基研によるとこれから助成金は年々減ることになっている²。実際に2013年度の収入では基礎物理学研究所からの助成金が例年の500,000円から450,000

²第7回共同利用運営委員会議事によると、2012年度決算（目次では決算と書いてあって、表には予算と書いてあったが、おそらく決算のことであろう）：一般共同利用 24,430,000円 内 研究会予算 13,000,000円、2013年度予算：一般共同利用 20,130,000円 内 研究会予算 13,000,000円。この差額は所員の財源で補われていて、この処置が今後も続くとは考えづらく、研究会予算が減額することが十分に考えられる。

円に減額している。若手三者の収入が減少し続けると、今後の夏の学校において旅費補助額が減少し、旅費補助が不安定となる。これにより、今後夏の学校を安定して実施させるためには、新たな収入として数十万円程度が必要になることが想定される。従って、今後は新たな財源を探求して行くべきであると結論付けられる。本議案によって得られた新たな財源は夏の学校参加者の旅費補助と、本議案で提案する協賛募集の際にかかる費用に充てるものとする。

1.4.2 web 広告案と基研サーバー

web 上で協賛募集をするという案が 2013 年度春の三者総会において「新たな財源としての協賛募集」として可決された。協賛募集とは具体的には原子核素粒子三者若手のホームページと夏の学校のホームページに法人または個人の広告バナーを掲載し、広告料を収入とすることである。同時に夏の学校のポスターにも協賛者の名前を表示する。この方法は物性夏の学校・天文夏の学校などで既に実施されている。

しかし、現在三者若手の web

<http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~yonupa/index.html>

のサーバーがある基研によると、「大学が提供している施設・サービス等を利用した収入が大学ではなく第三者に入るという点が認められない。(大学が提供するものには、運営費交付金等の税金が使用されており、それにより、第三者が収入を得るということが問題)」ということなので、基研のサーバー上では web 協賛募集ができないことがわかった。同様の理由により、現在各パートの web サイトがある各大学のサーバー上においても協賛募集をすることも難しいであろう。

従って、web 広告案を実際に行うには”有料レンタルサーバー”上に若手三者と夏の学校との web を置かなければいけないことがわかった。しかし、有料サーバーはメリットと同時にデメリットが存在する。

メリット

- 主目的である Web 広告による協賛募集が可能になる。多様な収入源によりリスクが低減する。
- サーバーがひとつに纏められるので、一度システムが構築されさえすれば、引き継ぎ等も簡単。
- 各役職校が編集集中のページについて情報共有できる。
- 共通のスタイルシート等が使える Web サイトの統一感を高めることができる。
- 各パート校のホームページの一本化により、登録・管理が簡略化する。

デメリット

- ホームページの引き継ぎ・作成・運営方法をこれまでと変える必要がある。
- 各役職校が緊密に連携して協力する必要がある。
- サーバー運用の知識が必要になる可能性がある。メンテナンス等が必要かもしれない。
- サーバーレンタル料金がかかるので、上手く軌道に乗らないと赤字になる可能性もある。

1.4.3 新しい助成団体の探求

現在の夏の学校に対する助成をして下さっている団体・研究所は素粒子論グループと基礎研究所である。新たな財源の確保の方法として、これらの団体の様に夏の学校の開催目的に賛同して助成して下さる財団法人や共同利用型の研究所などを探して我々から申請する事が考えられる。例として以下に候補を挙げるが、他に適切な団体があるかもしれない。天文や物性の夏の学校が助成を受けている団体も参考にされたい。

- 公益財団法人 平成基礎科学財団
<http://www.hfbs.or.jp/>
- 公益財団法人 国際科学技術財団
<http://www.japanprize.jp/>
- 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 核融合科学研究所
<http://www.nifs.ac.jp/index-j.html>
- 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台
<http://www.nao.ac.jp/>
- 東京大学 宇宙線研究所
<http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/>

以下の3つの候補は原子核研究の出版費を出してもらっているところであるため、助成金を頂くのは困難であると考えられる。

- 大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構
<http://www.kek.jp/ja/>
- 公益財団法人 仁科記念財団
<http://www.nishina-mf.or.jp/>
- 大阪大学 核物理研究センター
<http://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/>

この方法のメリットは、一度にまとまった収入を得ることが可能なことである。更に、Web 広告の方法のように新たなシステムを作る必要は無い。デメリットとしては、Web 広告の方法に比べて大口なことである。基研と同様に他の団体も収入が減っていることから援助を受けにくい可能性があること、およひ一件あたりの申請等に費やすであろう時間や労力 が大きいことが考えられる。しかし、例えば20万円の補助をして頂ける団体の一つでも見つけることが出来たら、収入の不安定性は大きく改善するであろう。

1.4.4 まとめ

我々センター校は、夏の学校の予算を安定させる為の新たな財源として、以上のように「有料サーバーレンタルによる Web 広告収入」及び「新しい助成団体の探索」という2つの案を提案する。

1.4.5 想定される質問

Q：無料のレンタルサーバーでも協賛募集できるのでは？

A：無料レンタルサーバーでは広告掲載が出来ないことが多く、また出来たとしても協賛の広告と同時に他の広告が強制的に混じってしまう。

Q : 本当に基研の夏の学校に対する助成金は減るんですか？

A : 減ることが示唆されており、また減ってから動くのは遅いので、少なくとも準備をしておくことが重要である。

2 2013年度事務局校（新潟大学） [’13/07/21 現在]

文責：石見 涼（新潟大学）

2.1 活動報告

本年度の三者事務局校の活動を以下に報告致します。ほぼ例年通りになっております。

- 2012年8月…2012年度事務局校（東京工業大学）から引き継ぎ
- 2012年8月…YONUPA-HP, YONUPA-ML 管理引き継ぎ
- 2012年10月…秋の三者総会（於 YONUPA-ML）の運営
- 2012年11月…春の三者総会のためのインフォーマルミーティングを申し込む
- 2013年3月…春の三者総会（於広島大学）の運営
- 2013年4,5月…YONUPA-ML 更新
- 2013年6,7月…次期役職校選定
- 2013年8月…夏の三者総会（於三者若手夏の学校）の運営

2.2 三者役職校選定（承認）

三者役職校は20のローテーション校（内5校は名簿校のみ担当）が持ち回りで担当しています。2013年度三者事務局は2015年度の事務局校と名簿校、および2016年度のセンター校と準備校を選定することになっています。過去の担当履歴ならびに学生の人数を考慮した結果、以下の大学の皆さまに役職校の担当をお願いし、引き受けていただけることになりました。そこでこれらの選定について、三者若手の皆様の承認をお願い致します。

年度	役職	大学名
2015	三者事務局校	神戸大学
2015	三者名簿校	広島大学
2016	三者センター校	九州大学
2016	三者準備校	京都大学